

カトリック 新潟教区報

第266号 2019(令和元)年6月17日 発行

編集・発行 カトリック新潟教区広報委員会
〒951-8106 新潟市中央区東大畑通1-656
TEL 025-222-7457 FAX 025-222-7467



新潟地区信徒大会開催

テーマ「福音宣教の可能性を考える」



講話中の菊地大司教様

3月2日(土) 午前10時より、新潟教会を会場に新潟地区信徒大会(春の大会)が開催され、70名ほどが集まった。

初めに、新潟地区信徒使徒職協議会2019年度総会が行われ、2018年度活動報告並びに決算報告、2019年度活動計画並びに予算案が承認された。この中で、2019年度行事計画として、いずれも5月実施の佐渡キリシタン塚巡礼と「愛の街頭募金」について。それぞれ実施概要等が説明された。なお、新潟市キリスト教連合会担当の高橋学師(花園教会主任)より、超教派で行う市民向けのイベントの現状と今後の見通しについて、報告を兼ねた発言があった。また、新潟カトリック女性の会会長の橘依理子氏(寺尾教会)より、昨年5月に新潟教会で開催された日本カトリック女性団体連盟(日力連)第44回総会への協力に対する謝意が表明された。

総会に続いて、菊地功大司教が「あらためて、福音宣教の可能性を考える」(副題…教皇フランシスコ来日を控えて)のテーマで約一時間の講演を行った。

初めに、このテーマを選んだ理由として、「福音宣教については、何度でも考え直していかなければならないテーマ」であるとし、加えて今年11月には教皇フランシスコ訪日が予定されており、「単に一過性のイベントに終わらせることなく、これを契機として、日本の教会の中で宣教を考えていくため」とした。

講演は大きく3つの骨子から成り、①福音宣教における一致の重要性②共同体としてのあかしと一人ひとりの言葉と行いによる生活のあかし③新潟教区の現状に即した福音宣教の可能性——について述べられた。

①については、現在教会が置かれている現状について、「大きな危機に直面している」とし、「その主たる原因が聖職者自身から出ており、特に未成年者に対する性的虐待の問題で大きな批判を受けている。このような状況で一致結束するのは難しく、世界的に見て教会がばらばらになっただけで済んでいる」と、厳しい認識を示した。この現実の中で、パウロが語るように、一人ひとりが与えられた役割を果たしながら、全体として同じ方向に向かっていく「多様性の一致」が必要である(ローマ12・4-5参照)。使徒言行録の証言によれば、初期キリスト者たちの

共同体は、民衆全体から好意を寄せられることで信徒が増えていった(使2・46-47参照)。現代にあつて、そのような魅力的な共同体となるために「祈り合う・学び合う・分かち合う・支え合う」そして「宣教する」共同体のあり方が提案された。

②については、宣教という課題を前に、世の光、地の塩としてこの社会の中に派遣されている一人ひとり、どうしたら言葉と行いによって、また、はっきりした宣言をもって福音をあかししていけるのか、定期的に問い直す必要があると繰り返し強調された。そして、30年余りで大きく成長したガナナの教会の例を示して「宣教師の仕事を支えるのは信徒のボランティアであるカテキスタであつて、彼らが主日の集会祭儀や洗礼の準備、聖書勉強会や病人訪問などの奉仕で貢献してくれていたからこそ、教会は広がり、召命も増えた」とし、宣教は司祭や修道者、または誰か才能のある人に任せておけばよいものではないと強調された。

最後に、これまでの統計を見ると、新潟教区では成人洗礼が毎年ほぼ50名前後で推移しており、これは悲観することではないと指摘。大きな教会のほうで共同体づくりは困難な場合もあり、むしろ小さいという利点を生かした共同体づくり、宣教を考えていつていただきたいと結ばれた。

講演後、参加者は約10名ずつ7グループに分かれて分かち合いの時間が持たれた。
昼食後、菊地大司教の主司式でミサがささげられ、散会した。
次回、2020年春の新潟地区信徒大会は花園教会で開催される予定。

司祭人事

(一) 内はこれまでの任務等

4月1日付任命

《秋田地区》

▲アンジェイ・レヴィツキー師 大館教会・鹿角教会主任(福岡教区飯塚教会主任) 〓 神言修道会

▲大川好洋師 能代教会主任(サバティカル) 〓 神言修道会

▲ブラフル・クジュール師 横手教会主任(大館教会・鹿角教会主任) 〓 神言修道会

▲フレデリック・ラウリシオ師 秋田教会助任(三河カトリックセンター) 〓 神言修道会

4月22日付任命

《新潟地区》

▲坂本耕太郎師 新潟教会(村松巡回教会) 〓 小教区管理者・青山教会主任兼任(青山教会主任)

▲伊藤幸史師 糸魚川教会主任・柏崎教会協力司祭兼任(新潟教会主任) 〓 東京教区

▲伊能哲大師 糸魚川教会主任の任を解く(高田教会・直江津教会・糸魚川教会主任) 〓 フランシスコ会

4月1日付

《教区外への転出》

▲フェリックス・ロボ師(能代教会主任) 〓 神言修道会

▲マルティヌス・オマン師(横手教会主任) 〓 神言修道会

▲ロベルト・ソリス師(秋田教会助任) 〓 神言修道会

▲エデルベルトウス・ナジ師(長岡教会・見附教会協力司祭) 〓 神言修道会

6月9日付任命

《小教区人事》

▲佐藤允広師(新発田教会主任) 亀田教会小教区管理者(新発田教会主任兼任)

▲ラウール・パラデス師(新潟教会主任) 白根教会小教区管理者(新潟教会主任兼任) 〓 高松教区

《地区人事》

▲坂本耕太郎師 新潟地区長代行

佐渡キリシタン塚巡礼に参加して

新潟教会 野村 みか

5月11日(土)、新潟教区並びに新潟地区信徒使徒職協議会共催で、佐渡キリシタン塚巡礼が行われ、新潟、長岡、山形などの各地区から60名ほどが参加した。当日は晴天に恵まれ、菊地大司教主司式で殉教者を記念するミサがささげられた。

菊地大司教は説教で、日本の教会の信仰は、列福された米沢の殉教者のように名前のわかっている人たちがばかりでなく、この中山峠で命をささげた無名の殉教者も含めて、多くの殉教者の信仰の上に成り立っていると語り、この日朗読された福音の冒頭に「実にひどい話だ。誰がこんな話を聞いていられようか」(ヨハネ6・60)と記されているように、「私たちの信仰も、世間一般の常識からは良いことと思われていることでも、それを脇に置いて、共同体の仲間と励まし合いながらイエスの弟子として生きるという、あえて面倒なことを選ぶという意味で、ひどい話」なのかもしれない。それでも、その「ひどい話」を信じて生き、命をささげた殉教者たちの信仰に連なる者として、私たちも永遠の命を目指すとして、私たちも永遠の命を目指すとして信仰の旅を続ける決意を新たにすることに巡礼の意味がある」と述べられた。



佐渡百人塚

個人的には、同じ福音でイエスが十二人に向けた「あなたがたも離れて行きたいか」(ヨハネ6・67)という問いが、時を超えて私たちにも突きつけられていると強く意識させられた。私たちには、福音の教えが「ひどい話」だと感じられる時、イ

エスから「離れ去り、もはやイエスと共に歩まない」選択をしてしまう可能性がある。あるいはまた、ペトロのように、そして殉教者たちのように、イエスのもとにとどまり、全幅の信頼をもってイエスの足跡に従うこともできる。では自分はどうなのかといえ、その答えはなかなか出ないと感じながら中山峠を下る自分がいた。

新潟からの参加者は両津港で解散後、希望者で佐渡教会を巡礼した。今回の巡礼にあたり、様々な形で協力くださった佐渡教会の皆さまに心から感謝申し上げます。

地区便り

新潟地区

朗読奉仕者選任式

2019年3月17日、新潟教区カテドラルにおいて神学生マキシミリアノ・コルベ岡 秀太氏の朗読奉仕者選任式が、新潟教区管理者・菊地大司教様は説教において、朗読奉仕者について次のように解説してくださった。

神学校は現在6年制であり、目標は司祭の叙階を目指して勉強するところである。まず司祭に向く人として認定されるところから始まり、朗読奉仕者、祭壇奉仕者、助祭、司祭の段階を踏む。

今日選任される朗読奉仕者には三つの務めがある。



朗読奉仕者専任式写真

一 典礼祭儀にて神のことばを朗読すること。

二 教理を教えて秘跡にあずかる準備をさせること。

三 キリスト教に出会っていない人たちに救いの教えを知らせること。

これらの務めのため、朗読奉仕者は福音を告げ知らせ、教会の教えを多くの人たちに知らせるため、特に行いによる証をもって伝えなければならない。

長岡地区

第14回長岡地区信徒養成講座開催

アグネス 設楽 智美

2019年3月17日(日)午後1時30分より、柏崎カトリック教会において、東京教区清瀬教会の赤井悠蔵様(仙台出身)を講師にお招きし、「教会における信徒養成」というテーマで、講話をお聴きしました。

現代日本のカトリック教会の現状を踏まえて、私たち信徒にできることは何か、多くの方向性を与えて頂きました。

まず初めに、第二バチカン公会議において信徒使徒職の見直しが行なわれたことと、その内容について詳しく説明して頂きました。祭司職(捧げる)とは、自身の家庭や労働の中での営みを神に感謝してお捧げすること、預言職(福音宣教)とは、自分の生活の中で生き様を通して「愛」を伝えていくこと、王職(奉仕)とは、奉仕する人が王である、ということ。

私たち信徒は、実生活の中で、祭司職・預言職・王職の意識を持って能動的に行動を起こしていくことが求められているのです。

次に、信徒使徒職の重要性の高まりについてお話しされました。司祭の高齢化や司祭数の減少などにより、従来の教会運営が困難な時を迎



講話中の赤井悠蔵様

赤井さんが仙台にいらした時に、「信徒養成講座」と「教会の祈りと聖時間」という、司祭・修道者・信徒がチームを作り自発的に実践された取り組みも紹介して頂きました。

「初めて教会に来る人に簡単にキリスト教を教えられるようになる」という目標を立て、カテキズムの教材と、学びと祈りをセットにして取り組まれたそうです。

また、謙遜と卑下を間違う人が多く、というお話も分かりやすく印象に残りました。「私でもできること」を丁寧に続けていくと、自分の得意・不得意が分かってくる。すると、「私だからできること」が分かると、「私だから求めていること」が分かると、神が私に求めていることが分かってくる、とお話しされました。

私たちは、すぐ「できない」と言いがちですが、マリア様の精神を見習って、相手や周りから望まれたことに対して、やってみようという気持ちを持ち、教会や社会の中で行動に繋げていきたいものです。

計報

ミカエル山頭泰種神父(新潟教区)



5月2日、肝細胞がんのため帰天。満70歳。1949年長崎県に生まれる。1979年司祭叙階。花園教会、亀田教会、白根教会助任司祭を歴任し、1988年～2005年フィリピンにて司牧活動に奉仕。帰国後、亀田教会主任、2007年白根教会主任を兼務。この間亀田カトリック幼稚園、白根カトリック幼稚園の園長・副園長を務め、多くの子どもたちに慕われた。

セクシャル・ハラスメント相談窓口が開設

カトリック新潟教区セクシャル・ハラスメント相談窓口が6月から開設されることになった。教区ハラスメント対応委員会(2017年当時の菊地司教により設置)が準備を進めてきたもので、この度ようやく開設の運びとなった。受付の対象となるのは、司祭・修道者による子どもへの性的虐待やセクシャル・ハラスメントについての相談で、担当者が電話で聞き取りを行い、具体的な対応は対応委員会が行う。対応委員会では、相談窓口についてのインフォメーション・カードを小教区に配布して、教区内への周知を呼びかけている。

新潟教区では、去る3月17日(日)四旬節第2主日に「性虐待被害者のための祈りと償いの日」の集いとミサが司教座聖堂で行われ(3月31日付「カトリック新聞」掲載)、集い冒頭のあいさつで教区管理者菊地功大司教から教区の取り組みについて説明がなされた。また、6月3日(5日)に開催される新潟教区司祭の集いでは「教会の中の性虐待・性暴力を防止する」私たち一人ひとりの問題として「をテーマに竹之下雅代氏(NPO法人フェミニストカウンセリング学会理事・ウィメンズカウンセラー 京都市)を講師に招いて、研修が行われる。

ひとりで悩まず
わたしたちにご相談ください

カトリック新潟教区
セクシャル・ハラスメント相談窓口

司祭・修道者による未成年者性虐待とセクシャル・ハラスメントについての窓口です

TEL 080-8912-8758
受付 毎週火曜日 13:00~14:00
(除く祝祭日)

新潟教区

二〇一八年度 決算報告

はじめに信徒の減少、高齢化等厳しい状況の中で、ご支援、ご協力をいただき厚く御礼申し上げます。二〇一八年度の小教区会計並びに教区本部会計に付きましては、顧問会、司祭代表者会議に報告すると共に、責任役員会で承認されましたので報告させていただきます。

小教区会計の収支状況

小教区会計の収支状況は、各小教区から決算報告を頂き、これを合算集計したものです。

一般会計では、収入合計額から支出合計額を差引いた収支残高は559万円の黒字で前年度比837万円の減少となりました。次年度への繰越金残高は一般会計と特別会計の合計で4億8、623万円になり前年度比4、932万円の増加となりました。

増加要因は今年度土地の売却があり、売却代金収入と売却代金を特別会計の建築基金へ積立てたことによるものです。決算書は各小教区分を合算したもので、各小教区の財務状況をうかがうことはできませんが、単年度収支マイナス分を繰越金残高や特別会計積立金の取り崩しで補填している小教区もあり厳しい財政状況になっています。

教区本部会計の収支状況

一般会計の収支残高は1、513万円の黒字となっていますが、司祭人件費等の収支残高と一粒会収支残高を特別会計に振替後の実質収支残高は1、291万円の黒字となりました。この収支残高は、前年比1、208万円の増加ですが、要因は土地売却代金の一部を、将来の教区財政基盤補充の為に運営基金への積立振替したことによるものです。この土地売却代金と大口寄付金、指定献金の教区基金への振替分を除くと、100万円ほどの黒字になりました。

本部財政も厳しく、信徒の皆様からの献金だけでは成り立たなくなってきました。来ておりますが、遊休土地の賃貸収入や特別寄付金等で現状はバランスが保たれている状況です。

教区を取り巻く環境を考えますと益々厳しい財政状況が予想されます。財政基盤の確立に向けて顧問会、司祭代表者会議や経済問題諮問委員会で話し合い、検討を行っておりますが、具体的な対策が見出せない状況です。引き続き検討をしておりますが、教区財政安定の為皆様の一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

なお特別会計で処理しております「一粒会会計」、「建設・共済基金会計」、「指定献金・特別献金集計表」は別紙のとおりです。

(教区事務局長 大瀧浩一)

2018年度 教区本部一般会計収支決算書				2018年度 小教区一般会計収支決算書			
2018年 1 月 1 日～12月31日 (金額単位1,000円)				2018年 1 月 1 日～12月31日 (金額単位1,000円)			
項 目	2018年度決算	2017年度決算	前年度増減額	項 目	2018年度決算	2017年度決算	前年度増減額
負担金収入	21,833	21,944	-111	献金収入	83,155	83,089	66
教区負担金（教区維持費）	10,313	10,241	72	教会維持費収入	43,007	44,381	-1,374
司祭活動負担金	5,780	5,900	-120	ミサ献金収入	20,869	21,560	-691
一粒会負担金	4,060	4,123	-63	一般・臨時献金収入	7,722	6,139	1,583
学校法人・修道会負担金	1,680	1,680	0	祭儀献金収入	6,406	5,346	1,060
寄付金収入	21,656	23,431	-1,775	司祭活動献金収入	5,151	5,663	-512
司祭寄付金	17,542	19,048	-1,506	指定献金収入	4,428	5,465	-1,037
一般・特別寄付金	4,114	4,383	-269	一粒会献金収入	3,906	4,216	-310
献金収入	2,185	1,600	585	寄付金収入	93,138	36,036	57,102
その他の収入	75,846	482	75,364	事業収入	187	133	54
収入合計	121,520	47,457	74,063	その他収入	3,388	2,430	958
宗教活動費	68,459	7,974	60,485	財務収入	20,772	12,986	7,786
神学生養成費	3,682	3,891	-209	収入合計	208,974	144,355	64,619
祭儀費、寄付金 等	64,777	4,083	60,694	宗教活動費	44,778	44,636	142
事務運営費	9,195	6,055	3,140	指定献金支出	4,461	5,409	-948
人件費	27,689	28,946	-1,257	一粒会献金支出	4,035	4,170	-135
司祭人件費（含法定福利費）	21,483	22,570	-1,087	事務運営費	31,792	30,326	1,466
職員人件費	6,206	6,376	-170	人件費	4,704	4,660	44
				維持管理費	35,298	17,246	18,052
その他の支出	1,044	1,031	13	事業支出	0	0	0
支出合計	106,387	44,006	62,381	その他支出	1,223	177	1,046
①収支差額	15,133	3,451	11,682	財務支出	77,095	23,776	53,319
< 司祭寄付金等と司祭人件費 >				支出合計	203,386	130,400	72,986
司祭寄付金・司祭活動負担金	23,322	24,949	-1,627	収支差額	5,588	13,955	-8,367
司祭人件費（含法定福利費）	21,483	22,570	-1,087	次期繰越金	106,785	101,198	5,587
②司祭人件費等収支額	1,839	2,379	-540				
< 一粒会負担金と神学生養成費 >							
一粒会負担金等	4,060	4,123	-63	特別会計次期繰越金	2018年度決算	2017年度決算	前年度増減額
神学生養成費	3,662	3,823	-161	建設・補修等積立金	312,146	271,051	41,095
地区練成会等補助	21	69	-48	その他の積立金	67,307	64,661	2,646
③一粒会収支額	377	231	146	特別会計繰越金総合計	379,453	335,712	43,741
実質収支額（①-②-③）	12,917	841	12,076	一般会計・特別会計繰越金合計	486,238	436,910	49,328

2018年度 指定献金・特別献金集計表				2018年度 一粒会会計収支状況			
(金額単位円：1,000円)				(金額単位円：1,000円)			
項 目		2018年度	2017年度	項 目		2018年度	2017年度
世界こども助け合いの日献金（児童福祉の日）		731	935	前年度繰越残高		44,135	42,612
教区青少年の日献金		271	313	一粒会費収入額		4,060	4,123
聖地のための献金		226	261	神学生のための特別献金		-	-
四旬節愛の献金		1,230	1,374	収入額計 ①		4,060	4,123
世界広報の日献金		329	320	神学生養成費		3,662	3,822
聖ペトロ使徒座への献金		307	302	錬成会等補助		21	69
世界難民移住移動者の日献金		331	459	支出額計 ②		3,683	3,891
世界宣教の日献金		290	300	収支残高 ①－②		377	232
宣教地召命促進の日献金（宣教地司祭育成）		339	355	宣教地召命推進の日献金教区組入額		239	256
糸魚川大規模火災支援		-	1,454	資金運用利息		602	1,035
その他の献金（司祭基金）		100	-	次年度繰越残高		45,353	44,135
合 計		4,154	6,073				

2018年度 建設・共済基金収支決算書						(金額単位：1,000円)					
支 出 の 部			収 入 の 部								
科 目	2018年度決算	2017年度決算	科 目	2018年度決算	2017年度決算						
会議費	86	-	小教区負担金	1,749	1,748						
旅費交通費	-	-	貸付金利息	236	450						
事務委託費	150	150	受取利息	1	1						
支払手数料	1	2	配当・分配金	457	637						
			国債振替益	-	340						
経 常 支 出 計	237	152	経 常 収 入 計	2,443	3,176						
当 期 末 貸 付 金 残 高	64,723	70,846	前 期 末 貸 付 金 残 高	70,847	77,242						
当 期 末 現 金 預 金 残 高	121,988	113,658	前 期 末 現 金 預 金 残 高	113,658	104,238						
合 計	186,948	184,656	合 計	186,948	184,656						

2018年							
教 会 名		信徒数	洗 礼		堅 信	結 婚 ^{注1}	求道者
			幼 児	成 人			
1	新 潟	753		6	11	3	2
2	花 園	265	1	1			
3	青 山	241	1				
4	寺 尾	153	1	1	3		2
5	鳥 屋 野	58		1	1		
6	亀 田	76					
7	白 根	16					
8	佐 渡	60			1		
新潟地区計		1,622	3	9	16	3	4
11	新発田（村上）	280	1	1			1
12	新津（村松）	149					4
15	加 茂	41					
16	三 条	130		1	2		
17	見 附	132					1
18	栃 尾	20					
新発田地区計		752	1	2	2	0	6
21	長 岡	393		2		1	6
23	柏 崎	389		5	2	1	8
24	直 江 津	130	2				
25	糸 魚 川	163	1	2			
26	十 日 町	122	1	1	1		
27	高田（妙高）	846	4	5	9	2	8
長岡地区計		2,043	8	15	12	4	22
新潟県合計		4,417	12	26	30	7	32
31	山形（新庄）	628	2	3		2	2
32	酒 田	45		1			2
33	米沢（長井）	126		1	1		1
34	鶴 岡	198	1	1	1	2	
山形地区計		997	3	6	2	4	5
41 ^{注2}	秋 田	1,029	2	1		1	10
42	土 崎	368	4	3			
43	鹿 角	26					
44	大 館	67	1				
45	横手（上宿）	183		1	1		1
46	能 代	24					
47	本 荘	53					
秋田地区計		1,750	7	5	1	1	11
新潟教区計		7,164	22	37	33	12	48
教役者・信徒							
信者総数		7,265	・・・教役者数101名＋一般信徒7,164名				

新 潟 司 教 区 統 計			
(2018年12月31日現在)			
1. 概 況			
(教区人口比：0.16834%)			
面 積	33,544.83km ²	信者総数	7,265人
人 口	4,315,557人	求 道 者	48人
2. 人 員 構 成			
司 教	-	聖霊奉侍布教修道女会	邦人 …… 4
教区司祭	邦人 …… 15	外国人	… 1
	外国人 …… 1	聖心の布教姉妹会	邦人 …… 34
神言会員	邦人 …… 3	オタワ愛徳修道女会	邦人 …… 3
	外国人(神学生1名含む) … 11	聖クララ会	邦人 …… 10
フランススコ会員	外国人 …… 2	聖マリア在俗会	邦人 …… 7
	邦人(修道士2名含む) … 5		
イエズス・マリアの聖心会員			
	邦人 …… 1		
	外国人 …… 1		
他教区から派遣司祭	邦人 …… 1		
	外国人 … 1		
教 区 神 学 生	… 1		
3. 事 業			
小教区教会	… 30	教育事業	
分教会・巡回教会	… 5	幼稚園	… 25
集会所	… 2	園児数	… 2,573
女子修道院(在俗会含む)	… 6	女子中学校	… 1
		生徒数	… 76
社会福祉事業		女子高等学校	… 2
老人ホーム	… 5	生徒数	… 753
宿泊を伴う利用者数	… 266	女子短期大学	… 2
その他の老人福祉事業	… 9	学生数	… 516
宿泊を伴う利用者数	… 117	児童福祉事業	
宿泊を伴わない(年間のべ人数) …	39,883	保育園	… 6
その他の福祉事業	… 4	園児数(年間のべ人数) …	418,724
宿泊を伴う利用者数	… 60	その他の児童福祉事業	… 11
宿泊を伴わない(年間のべ人数) …	5,342	宿泊を伴う利用者数	… 187
		宿泊を伴わない(年間のべ人数) …	25,377
4. 移 動			
転入		転出	死亡 …… 77
教区内	… 5	… 2	
教区外	… 11	… 22	
その他	… 1	… 45	

注1．結婚：信者同士、信者と他キリ、信者と非キリのみ。
注2．秋田教会には、聖体奉仕会シスターの人数（18名）が含まれています。

2018年度

東日本大震災復興支援活動状況

2011年3月11日の東日本大震災発生から、今年3月で8年が経過しました。被災地では仮設住宅が順次閉鎖、場所によってはインフラの整備が進むなど、その姿を変えつつあります。一方で、いまだに避難生活を続けている方々、帰還を諦め、避難先となった地で新たな生活を始めている方々もあり、個々の生活再建には大きな課題が残されているのが実情です。

新潟教区にあつては、教区の地理的条件を考慮し、新潟にセンターを設けず、秋田、山形、新発田、新潟、長岡の各地区で可能な支援を迅速に行うようにお願いしてきました。また、東日本大震災以降ほぼ毎年のように各地で自然災害が発生していますが、今後このような災害が起きた場合に迅速な災害対応が可能となるよう、東日本大震災復興支援活動の記録を残しておくという見地から、2013年度以降、それぞれの教会や修道会などに支援活動の状況のご報告をお願いしてきました。趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りましたことに感謝いたします。

このたびも2018年度に新潟教区でどのように被災地支援を行ったかをお聞きしました。活動状況の取り組みを相互に知ることにによって今後の支援活動の参考にしていただければ幸いです。

支援活動の概況

2018年度については、カトリック学校2、小教区13（教区で独

自に把握したものを含む）、奉獻生活の会4、その他の団体2の計21団体についてご報告をいただきました。地区別では、秋田地区6、山形地区1、新発田地区3、新潟地区8、長岡地区3となっており、教区内のすべての地区で支援活動が実施されたことを示しています。

全般的な傾向としては、祈りや献金・寄付などが多くなっています。が、被災地訪問や関係者を招いてお話を聴くなどの報告もありました。これについては、カリタス南相馬の協力を仰ぐケースが多く、「支援する側・される側」といった関係から相互に協力し合う関係へと変化しているようです。

2018年度の支援活動について、地区ごとに別表1～6に示します。

その他の災害への対応―西日本豪雨災害、北海道胆振東部地震

西日本豪雨災害や北海道胆振東部地震に際しては、多くの小教区で救援募金並びにその後の献金などを実施されていることと思われます。今回お寄せいただいた中から、具体的な報告のあった加茂教会、新潟カトリック女性の会、高田教会について紹介します。

加茂教会（新発田地区）…加茂教会の信徒が、自身の音楽活動を通じて知り合った友人たちの協力を募り、8月に加茂市内で西日本豪雨災害支援のためのチャリティーコンサートを開き、収益をカリタスジャパンへ送金。

新潟カトリック女性の会（新潟地区）…日本カトリック女性団体連盟の呼びかけに応え、西日本豪雨被災地の愛和聖母幼稚園へタオルとTシャツを寄付。北海道胆振東部地震支援金を札幌教区へ送金。

高田教会（長岡地区）…西日本豪雨災害への対応…カトリック新聞の記事を参考に、支援センターのある所に直接支援金を送金。北海道地震については、支援金取りまとめを始めたが早期に締め切られたため、支援先をインドネシアへ変更。

2019年度に向けて
司教団は2016年12月臨時司教総会で、日本の教会が全体として東日本大震災の復興支援に当たる体制を、2021年3月まで間継続することを決定しました。

震災から8年が経過し、ベースの閉鎖・地元への移管といった動きがある一方で、特に福島県浜通りにあつては、2021年3月以降も継続的な支援が必要な状況が続いています。この状況に対応するため、これまでカトリック東京ボランティアセンター（東京教区）によって運営されてきたカリタス南相馬が、この4月より「一般社団法人 カリタス南相馬」として再出発しました。引き続き、祈りと共に被災地支援活動へのご理解とご協力をお願いいたします。

なお支援活動にあたっては、教区担当者にもご一報いただければ幸いです。

【連絡先】
新潟司教館 気付 町田 正神父
ファックス：0251-222-7467
電子メール：nig-cur@nancy.jp

別表1 カトリック学校

活動主体	区分	実施日	活動内容	備考
聖霊女子短期大学 付属高等学校	教育活動	随時	・宗教科特別授業の実施 ・その他教科の授業を通してのアプローチ	
	祈りと献金	5月18日	・全校生と教職員による献金 ・ミサの共同祈願	
		7月15日	・聖霊祭（学園祭）での模擬店収入の一部 その他献金	
		12月16日	・クリスマス会 祈りと献金	
	チャリティー コンサート	6月30日	・ハンドベル部コンサート	・会場：小高区浮舟ふれあい広場 （南相馬市小高区） ・主催：小高ぶらっとほーむ ・協力：カリタス南相馬
		10月13日	・カトリック秋田教会チャリティーコンサート 「原発事故から7年半 福島を忘れない」	・ハンドベル部、吹奏楽部出演 ・聖母会による特別企画展示と献金箱の設置
	被災地訪問、 現地ボランティア	9/8～9 10/20～21	・教職員被災地視察研修（全教職員が2つのグループに分かれて福島原発事故被災地を視察研修）	・貸切バス（修道会負担）利用 ・カリタス南相馬に宿泊 ・カリタス南相馬のスタッフによる案内 ・被災者の方の話を聴く
	啓発	10/23・24	・高3特別授業 テーマ：「命を守る」 講師：Sr. 畠中 千秋氏（カリタス南相馬所長）	
聖霊女子短期大学	啓発	9/27（1年生） 10/25（2年生）	・学生対象の講話 テーマ「命の大切さ」 講師：Sr. 畠中 千秋氏（カリタス南相馬所長）	
	現地訪問	9月、10月	・教職員及び学生対象の現地視察研修実施 （カリタス南相馬）	

別表 2 秋田地区

活動主体	区分	実施日	活動内容	備考
秋田教会	寄付・献金	10月13日	・カトリック秋田教会チャリティーコンサート「原発事故から7年半、福島を忘れない」	・収益はCTVCへ
土崎教会	祈り	主日ミサ後	・主日ミサ後に参加者全員で「主の祈り」と「アヴェマリアの祈り」を唱える。	
聖霊会秋田修道院	祈り	毎日		・週1回聖体顯示
	現地訪問	年2回	・教職員のカリタス南相馬での視察研修	・管区の援助、1泊2日
聖心の布教姉妹会 保戸野修道院	祈り	毎日	・毎晩「教会の祈り」の後、共同で「東日本大震災被災者のための祈り」をしている。	
	献金	要請のある時		

別表 3 山形地区

活動主体	区分	実施日	活動内容	備考
オタワ愛徳修道女会 山形修道院	祈り	毎日	・「東日本大震災被災者のための祈りⅡ」	
	物品購入		・被災地の食品購入支援（主に宮城県）	
	寄付		・福島の野菜畑寄付支援	

別表 4 新発田地区

活動主体	区分	実施日	活動内容	備考
三条・加茂教会	祈り	主日ミサ後	・「東日本大震災被災者のための祈りⅡ」を全員で継続して祈り続けている。	・その他の災害や事故、事件などで苦しむ人々のためにも併せて祈る。
栃尾教会	祈り	主日ミサ前	・ロザリオの祈り	・東日本大震災、熊本地震、西日本豪雨災害、北海道地震の被災者、犠牲者のため

別表 5 新潟地区

活動主体	区分	実施日	活動内容	備考
青山教会	福島県産品販売	10/14（日）	・バザーで果物、加工農産物を中心とした「福島やさい畑～復興プロジェクト」からの委託販売	
亀田教会	祈り	各主日	・東日本大震災被災者のための祈り	
	福島県産品販売	10/7（日）	・教会バザーでのNPO法人「福島やさい畑」からの委託販売。	
白根教会	祈り		・ミサの共同祈願として祈る。	
	福島県産品販売		・バザーで、「福島やさい畑～復興プロジェクト」の商品を扱い販売した。	
	物品購入		・タオル共同購入取りまとめ	・仙台教区サポートセンター
寺尾教会	寄付		・バザー収益金の一部をカトリック東京ボランティアセンターに送金。	
		随時	・福島県産品、ワインを共同購入し、収益金をカトリック東京ボランティアセンターへ送金。	
	祈り	各主日	・ミサの派遣の祝福の前に「東日本大震災被災者のための祈り」	
	その他		・「福島やさい畑～復興プロジェクト」有志支援	
新潟教会	啓発	常時	・仙台教区八木山教会ニュースレター設置、復興ニュースコーナーを継続。	・前年より継続
	寄付	11/11（日）9時半ミサ後 12/2（日）英語ミサ後	・バザーを行い、収益金をカリタス南相馬内の「真ころ」と「八木山オリブの会」（亙理教会支援）へ送金。	
		各主日	・ミサ後に有志が談話室でコーヒーコーナーを開催。 ・ミサ後に有志グループ「東大畑茶寮」が談話室で手づくりスイーツを販売。	・収益は東日本大震災復興支援としてカリタスジャパンへ送金。
		復活祭、クリスマス	・上越聖クララ会修道院よりクッキーを仕入れ販売。	・収益は東日本大震災復興支援としてカリタスジャパンへ送金。
	活動支援	年間	・NPO法人「福島やさい畑」～復興プロジェクト」を支援する「新潟からし種の会」に信徒有志が参加。 ・綿の花を苗から育てて摘み、復興支援活動をしている「亀田編応援隊」（教会外）に届ける活動を継続	・信徒有志の活動、2012年より継続
花園教会	祈り	主日	・主日ミサ後に「東日本大震災被災者のための祈りⅡ」を参列者一同で祈っている。	
	水産物購入		・被災地経由で秋刀魚を購入	個人
	活動支援		・福島県在住の児童の保養を支援	個人
新潟からし種の会	献金	年間	・NPO法人「福島やさい畑～復興プロジェクト」の活動支援（一口500円）	会員数32名 (内訳) 新潟 22 青山 2 寺尾 7 教会外 1 (2016年12月現在)

別表 6 長岡地区

活動主体	区分	実施日	活動内容	備考
柏崎教会	祈り		・3.11に近い日曜日に共同体として祈りを続ける。	
	活動支援		・ヒマワリを栽培し、ヒマワリ油づくりに協力	
	啓発・共有		・被災地出身の信徒から、年一回状況を聞いている。	
高田教会	祈りと献金		・墓地ミサでの追悼ミサに合わせて献花と献金 ・東北支援の献茶会	・NPO法人「福島やさい畑～復興プロジェクト」に送金。
聖マリア在俗会	物品支援	年2回	・「大熊町自閉症児親の会スマイル」に夏には清涼飲料水、クリスマスごろには果物を贈っている。	
	祈り		・「東日本大震災被災者のための祈り」を祈っている。	